

## 沿岸域環境科学教育研究センターの概要

研究施設は、熊本市黒髪の本学南地区(沿岸域環境科学教育研究センター)と天草五橋の松島橋の近く(合津マリステーション)にあります。マリステーションには実習室、宿泊施設、調査船があり、調査研究と臨海実習(平成14年度の予定はお知らせにあります)がおこなわれています。



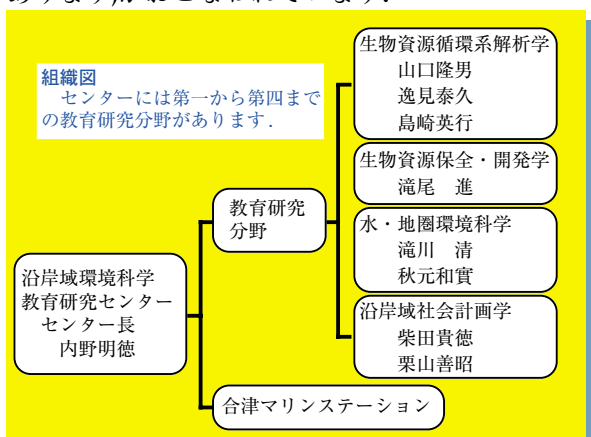
合津マリステーション(旧理学部附属臨海実験所)の全景。左の建物は実習、実験施設、右の建物は宿泊施設です。手前は実習船です。

```

ATGAAATCAGTTATTACTACTACGAT
CGGTG CAGCAGATGCTGCTGTCGT
TTCCCGTCCAGTTCGGATCTTGAATC
CGTTCAAGGTAATATCCAACGTGCAG
CAGCTCGACTAGAAGCAGCTGAAAA
ACTAGCTAGCAACCATGAAGCAGTT
GTTAAAGAAGCTGGCGATGCTTGT
TGCTAAATACTCTTACTTGAAAAATC
CAGGTGAAGCTGGTGACAGTCAAGA
AAAAGTAACAAATGCTACAGAGAT
GTAGATCATTATATGCGTCTAGTTAA
CTACTGCTTAGTTGTTGGTGGTACTG
GTCAGTAGACGAGTGGGGCATTGTC
TGGTGCTCGTGAAGTTTACCGTACTT
TAAATTTAACAACCTCTGCTTACGT
GCATOCCTTGGCGTTTGCTCGTGACAG
ATTATGTGTTCCAGCTGACATGCTG
CTCAAGCAGGTGTTGAATATGCTGGT
AATTTAGACTACCTTATCAACGCTTT
AAGCTAA
    
```

フィコビルン(赤)  
カロチノイド(黄)  
クロロフィル(緑)

ノリの色素とスサビノリのフィコビルン遺伝子の配列



第一分野(生物資源循環系解析学)は、有明海・八代海の干潟・浅海域の生物の多様性をモニタリングすることで、生態系への環境変化の影響を研究しています。

第二分野(生物資源保全・開発学)は、水産資源として有用な動植物のゲノム情報の解析とそれらの環境応答機構から、優良種の選別や作出および環境指標生物の開発を目標としています。

その第一歩として養殖ノリの色落ちのメカニズムについて遺伝子レベルから研究しています。



ノリの遺伝子の解析

第三分野(水・地圏環境科学)は、海洋、大気および陸上の環境、海底地形および干潟の変化など、自然環境のメカニズムを地球科学と環境工学の手法を用いて調べています。

さらに、台風や波浪に対する防災、自然環境の保全、沿岸域の開発・利用と調和した環境創造の方法、環境回復の方法などを教育研究しています。



約4000年～7000年前の有明海

当時の有明海(青色の横線)は、現在(青色に塗られた部分)と異なり、熊本市東部まで広がっていました(松田ほか、2001より引用)。

第四分野(沿岸域社会計画学)は、自然・文化・歴史・経済などさまざまな視点から地域環境について調査・分析し、これらをもとに地域の活性化につながり、自然環境とバランスのとれた生活環境つくりの方法について研究しています。